

平成25年5月30日

会員及び関係者のみなさま

NPO法人 民間稲作研究所  
理事長 稲葉光國

### 第8回日韓生き物調査交流会・アジア環境創造型稲作技術会議2013のご案内

前略 日本と韓国の水田を舞台に実施されてきた田んぼの生き物調査が、今年度は7月11日～13日に韓国忠清北道 清原（チョンウォン）で開催されることになりました。会場となる韓国教員大学は韓国ではもっとも古くからコウノトリの飼育施設を持ち、野生化に関する研究を行ってきた大学です。大学に隣接するアマガエル米情報化村は有機稲作を村ぐるみで実践し、教員大学と協力しながらコウノトリの野生復帰に取り組み、村起こしを行ってきた生産組合です。

実施内容に記載されているとおり、韓国は農業者や生協等の反対を押し切って FTA 協定をいち早く締結してきました。高齢化や後継者不足に直面し農村のコミュニティは崩壊の危機にありますが、生き物を育む有機農業の実践と生協などとの交流・支援活動によって地域の経済や環境の保全と発展をめざして活動しています。よく海外からは日本と韓国は双子の兄弟といわれてきました。稲作技術だけでなく政治や経済・教育などでも大変似かよった環境にあります。政策的に一歩前を進む韓国の農業事情をこの機会に学び、日本での活動に生かしていただければ幸いです。

8月9日～11日、栃木県小山市で「アジア環境創造型稲作技術会議2013」が開催されます。第10回までは日韓中保全型稲作技術会議として3か国の持ち回りで開催してきましたが、日本での会議は民間で開催してきました。当会の会員が中核となり山形、秋田、栃木と会場を移しながら実施し、「有機農業推進法」の制定や「生物の多様性を育む農法」の普及や技術確立に大きく貢献してきました。その過程で豊岡市でのコウノトリ、佐渡市でのトキの野生復帰、宮城県大崎市田尻の蕪栗沼周辺水田のラムサール登録湿地運動に関わってきたことから、第11回からは豊岡市、佐渡市の全面的な支援を受け、「生物多様性農業国際会議」として開催してきました。今年度の会議はラムサール登録湿地に指定された渡良瀬遊水地に隣接する小山市が中核となり開催する運びとなりました。この集会を機に関係市町村が一体となって関東一帯が環境創造型の稲作に転換するきっかけになれば幸いです。

会員のみなさまをはじめ、危機に瀕する農業の未来に関心を寄せる知人や関係者のみなさまにこの集会の意義をお知らせ頂き、是非ご参加下さいますようお願い申し上げます。

早々

## 第8回韓日田んぼの生き物調査交流会開催要綱(案)

今まで韓国と日本で行われてきた韓日田んぼの生き物調査交流会が今年で8回目を迎えます。今年は韓国の忠清北道 清原<sup>チヨンワオン</sup>で開催します。生命を育む稲作の意味や新しい自然の捉え方を提示してくれた生き物調査は、私たちに持続可能な未来のあり方を提示してくれています。しかし、私たちが置かれている状況は農業や生物多様性にとってそんなに友好的ではありません。2008年韓国で開催されたラムサールCOP10は、水田湿地の大切さを世界に発信した希望のメッセージでした。ところが、稲作や環境を保全しようとする政府の政策や研究などが、今の農業や村、人々のコミュニティーの破壊の速度には追いつかない状態です。幸い、2012年佐渡で開催された第7回韓日交流会では稲作が育んできた自然との共生、生物多様性を育む農業の希望を見ることができました。

清原郡で開催される今回の交流会では、7年にわたって行われてきた生物多様性を育む稲作技術の現在と未来について深く議論する場にしてほしいです。生物多様性を育む農業とはどういうものか？、環境を配慮した農業が生産者にも消費者にも必要な理由は何か？について多くの意見が交わされることを望みます。また、田んぼへの視点や考え方を新しく作っていく様々な取り組み、生き物調査や研究活動、体験プログラム、それに伴う人々の認識転換などについて、多くの事例が交流できることを期待します。

### 1. 開催概要

- 1) 開催テーマ：生命と環境を育む稲作を守ろう！
- 2) 開催期間：2013年7月11日(木)～13日(土)
- 3) 開催場所：韓国教員大学教員研修院（清原郡江内面多楽里）
- 4) 後援：忠清北道、清原郡、iCOOP生協、(社)韓国BM協会
- 5) 主管：韓国水田湿地ネットワーク
- 6) 主催：アマガエル米情報化村（清原郡江内面塔淵里）、韓国教員大学コウノトリ生態研究院
- 7) 参加団体  
韓国(400名) アマガエル米生産者(300名)、洪城ノンペミ、烽下田の世界、iCOOP生協キヨリ、ハンサルリムノンサルリム、(社)韓国BM協会、(社)エコ・コレア、韓国教員大学コウノトリ生態研究院、洪城ブルム主穀環境営農組合法人、光州ハンセボン、韓国ナショナルトラスト、竹岩農場など  
日本(30名) NPO法人民間稲作研究所、NPO法人田んぼ、NPO法人オリザネット、ラムサルネットワーク日本他
- 8) 企画団：朴仁子(韓国水田湿地ネットワーク代表・iCOOP生協水田湿地研究チーム)、金尚浩(アマガエル営農組合法代表)、イム・ジョンヒヤン(韓国水田湿地ネットワーク幹事・烽下田の世界)、キム・キョンザ(ハンサルリムノンサルリム)
- 9) 実行委員会：清原アマガエル米情報化村、清原郡監査情報課ユン・ヨンサン、洪城ノンペミ、烽下田の世界、iCOOP生協キヨリ、ハンサルリムノンサルリム、韓国BM協会、エコ・コレア、韓国教員大学コウノトリ生態研究院、洪城ブルム主穀環境営農組合法人、光州ハンセボン、韓国ナショナルトラスト、竹岩農場
- 10) 開催日程  
第1回実行委員会 3月28日(清原)  
有機稲作農業栽培技術ワークショップ(清原) 3月28日  
第2回実行委員会 4月15日(清原)  
韓国田んぼの生き物調査の日(清原) 6月21日

韓日田んぼの生き物調査交流会(清原) 7月11日~13日

2. 交流会日程

時間	日程	備考
7月11日(木) 進行 キム・ヒョンスク、パク・ミキョン (iCOOP生協水田湿地研究チーム) 場所: 韓国教員大学		
14:00	日本側参加者 ①成田発 日本航空JL951便 10:05 インチョン到着12:40 ②関空発 イースター航空 ZE612 11:10 インチョン到着 13:00	集合時間 インチョン空港 到着ロビー 13:30 (稲葉携帯電話09031063211) 空港出発14:00
13:30	受付	韓国参加団
17:00	韓国教員大学着、受付	日本参加団
17:30	・韓国教員大学コウノトリ生態研究院視察 -案内:コウノトリ生態研究院	日本参加団
19:00	・開会式 -開催地紹介(金尚浩アマガエル米情報化村代表) -歓迎の挨拶(韓国:朴仁子、日本:古谷愛子) -オリエンテーション	司会:ハ・ジョンヒ(韓国B M協会代表)
20:00	夕食	
21:00	宿所へ	韓国教員大学
7月12日(金) 進行 イム・ジョンヒョン(韓国水田湿地ネットワーク幹事) 場所: 韓国教員大学、田んぼ		
07:00	朝食	
08:00	日程案内・移動	バスで移動
09:00	【生き物調査】 ①有機圃場(2ヶ所を調査) -総括:古谷愛子(NPO法人オリザネット) 補助:iCOOP生協 ②無農薬圃場(2ヶ所を調査) -総括:キム・スキョン(コウノトリ生態研究院研究員) 補助:ハンサルリムノンサルリム	①はすの花村 ②桑糸博物館
12:00	昼食	お弁当
13:00	【田んぼに関わる活動交流分科】 ・韓国 ①交渉中:パク・クァンレ(農村振興庁) ②田んぼの学校とハンセボン事例:光州ハンセボン ③村づくり事例:アマガエル米情報化村 ④親環境農業団地稲作事例:慶商南道固城郡農業技術センター ⑤生き物調査事例:清原郡の生き物調査事例 キム・スキョン ・日本 ①トキを育む稲作と世界農業遺産の取り組み 大石麻美 ②高島生きもの田んぼ米の取り組み 石津文雄(交渉中) ③農協が主体となった生き物調査 石塚美津夫 ④生物多様性の危機 フィプロニル農薬・ネオニコチノイド系農薬の脅威 岩崎充利:御園孝 *全体討論:30分	司会:ハンサルリム 発表時間:各24分(逐時通 訳含み) 中間休憩時間24分
	【生物多様性を育む稲作栽培技術に関する討論分科】 ①韓国 生物多様性稲作栽培技術実験:チュウ・ジョンサン(洪城 ブルム主穀委員長)60分 ②日本 日本の生物多様性栽培技術と未来:稲葉光国(民間稲作研	司会:チョン・ミンチョル 中間休憩時間20分

	研究所) 60分 ・パネルディスカッション ①韓国 2名：20分ずつ - キム・ジョンホ (営農法人烽下村代表) - チョン・ソンソプ (ハンサルリム生産者) ②日本 2名：20分ずつ - 館野廣幸 (有機稲作農家 日本有機農業研究会理事) - 本田耕一 (有機稲作農家 徳島県) *全体討論：30分	
18:00	【晩餐会】 1部：歓迎式 歓迎の挨拶：(各10分、通訳含め) イ・シソン (忠清北道知事、 イ・ジョンユン (清原郡首) キム・シュソン (韓国教員大学総長) 晩餐会 2部：公演 - 韓国 - 日本	
7月13日(土) 司会：朴仁子 (韓国水田湿地ネットワーク代表) 場所：韓国教員大学		
08:00	朝食	
09:00	申し込み	
09:30	分科会のまとめ ① 田んぼに関わる活動交流分科、20分(通訳含め) キム・ソクスン (ハンサルリムノンサルリム) ② 稲作栽培技術に関する討論分科、20分(通訳含め) チョン・ミンチョル (洪城ブルム専門部教師) 質疑応答 20分	
10:30	休憩	
10:40	【田んぼの生物多様性の現在と未来】 ①コウノトリ関連報告 (バク・シリョン、韓国教員大学教授) ②田んぼと生物多様性に対する講演 古谷愛子 (NPO法人オリザネット)、40分 ③田んぼの生物多様性指数と生物指標種選定 (ハン・ドンウクorヤン・ドンウ、PGA湿地生態研究所) 40分 ・質疑応答：20分	
13:00	・閉会式 - 日本 古谷愛子 - 韓国 (金尚浩・アマガエル営農組合代表)	記念撮影
13:30	昼食	
14:30	・ピョルラッ韓紙村探訪 - 村探訪 - 韓紙生産過程見学 - 餅つき体験など	日本参加団
19:30	解散	

### 3. 参加費

100,000ウォン資料代、宿泊(2泊)、食事(6食：11日夕食～13日昼食)、晩餐会参加費込み

## 参加申込書

- 1 申し込み締め切り6月9日下記の申込書の該当する項目を○で囲み、0285-53-1133まで送信してください。
- 2 問い合わせ先 NPO法人 民間稲作研究所 担当稲葉 (090-3106-3211)

<b>ご氏名</b>		<b>TEL</b>	
		<b>携帯</b>	
<b>ご住所</b>			
<b>出発希望空港</b>	①成田      ②関空      ③その他 (      ) 空港		
<b>航空券手配</b>	①自己手配      ②手配を依頼したい		
<b>集会参加費</b>	100,000ウオン(その他の経費を含めインチョン空港で徴収します。)		
<b>その他の経費</b>	<b>バス代</b>		7/11 (空港⇒会場)、7/13 (会場⇒ホテル)、7/14 (ホテル⇒空港) 450,000ウオン/利用者
	7/13	<b>入場料</b>	20,000ウオン (夕食代を含む)
		<b>ホテル</b>	①シングル (88000ウオン)    ②ツイン (55000ウオン)    ③自己手配
	7-14	<b>朝食</b>	①希望 (18700ウオン)      ②希望しない
<b>全日程参加経費総額 (参加者20名の場合)</b>		100,000+22,500+1,250+20,000+88,000+18,700 =250,450 ⇒日本円約25,000円です。 これに26,000円 (スカイゲート5月30日予約の場合) の航空券+税金が加算されます。予約が遅くなると割高になりますのでお含み置きください。	

### ●7月13日宿泊ホテル情報

1) ホテル名 : ソウルガーデンホテル <http://www.seoulgarden.co.kr/>

住所 : (121-040)169-1 Dohwadong, Mapogu, Seoul TEL:+81-2-717-9441・FAX : +81-2-715-94

41

### ●バス代 - 45人乗り大型バス

date	7月11日(木)	7月13日(土)	7月14日(日)
料金	450,000₩	450,000₩	250,000₩

※7月11日は、バスは仁川空港で14:00出発です。※7月14日は、韓国教員大学から14時30分に出発し、ビョルラツ韓紙村探訪をして、ソウルのホテルには19:30着の予定です。

※乗車人数によりバス代は変わります。 ※ビョルラツ韓紙村紹介サイト :

[http://navercast.naver.com/contents.nhn?rid=11&contents\\_id=3022](http://navercast.naver.com/contents.nhn?rid=11&contents_id=3022)

<p>韓国での問い合わせ先 (李銀鮮)</p> <p>TEL: +82-2-2181-7907 / FAX : +82-2-2181-7960</p> <p>携帯 : +82-10-7229-7420</p> <p>E-mail : <a href="mailto:esleegoh@naver.com">esleegoh@naver.com</a></p> <p>住所 : 3F 171-9 Singil-dong Yeongdeungpo-gu Seoul, R.O. Korea (150-050)</p>
--

